

鎌倉市ごみ減量講演
於・鎌倉市福祉センター
2013年8月10日



講演 家庭ごみ有料化の意義と効果

東洋大学経済学部教授
山谷修作

講演内容

1. なぜごみ減量化、有料化か
2. 家庭ごみ有料化の現状
3. ごみ減量効果は出ているか
4. 有料化導入時の課題
5. 有料化を活用して3Rの取組を推進し、持続可能な社会をつくる

1. なぜごみ減量化、有料化か

現代社会が直面する主なごみ問題

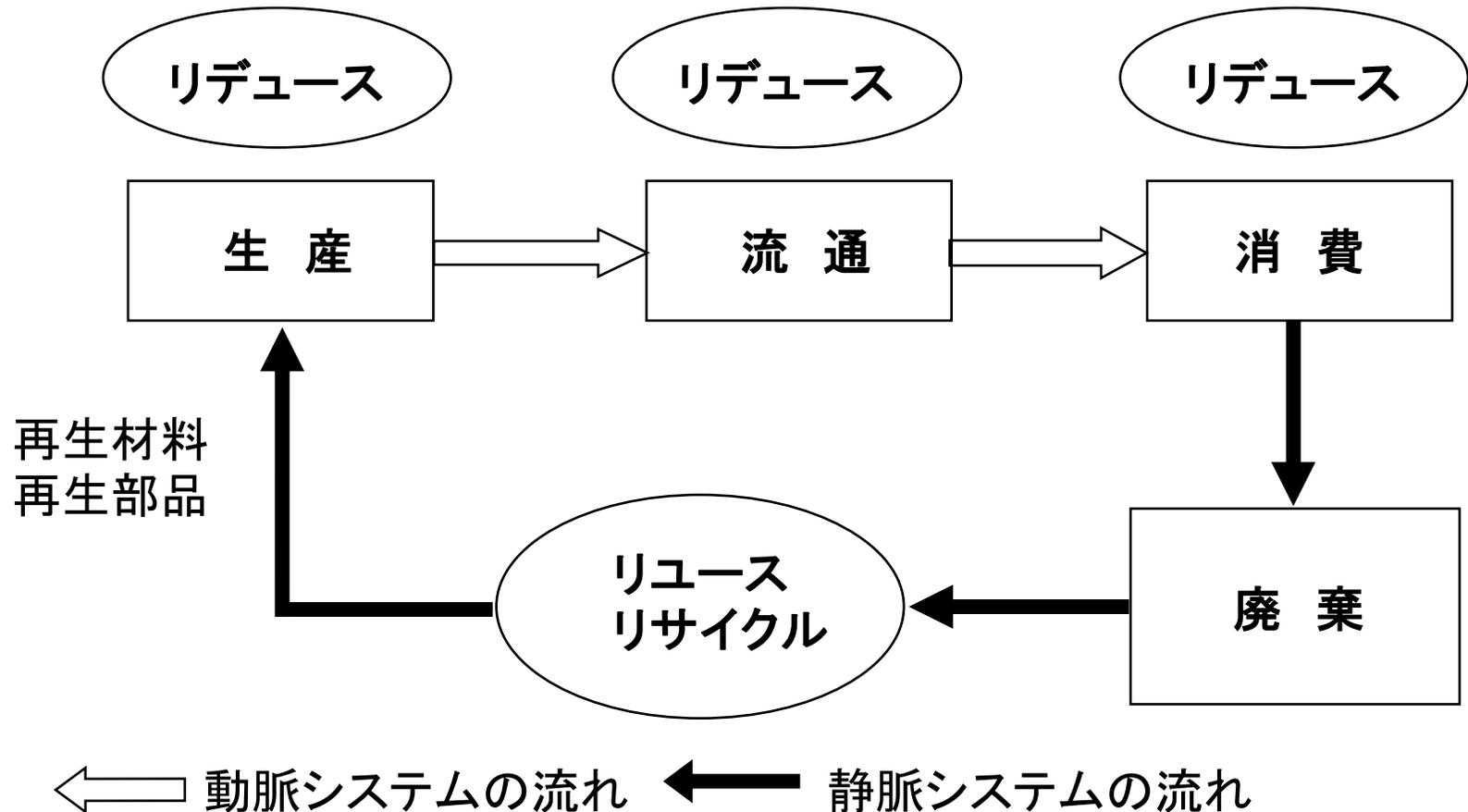
1. 地域と地球の環境負荷の増大
2. ごみ処理・処分施設の限界
3. ごみ処理費用の高止まり



3Rの取り組みによるごみ減量が必要

Reduce Reuse Recycle

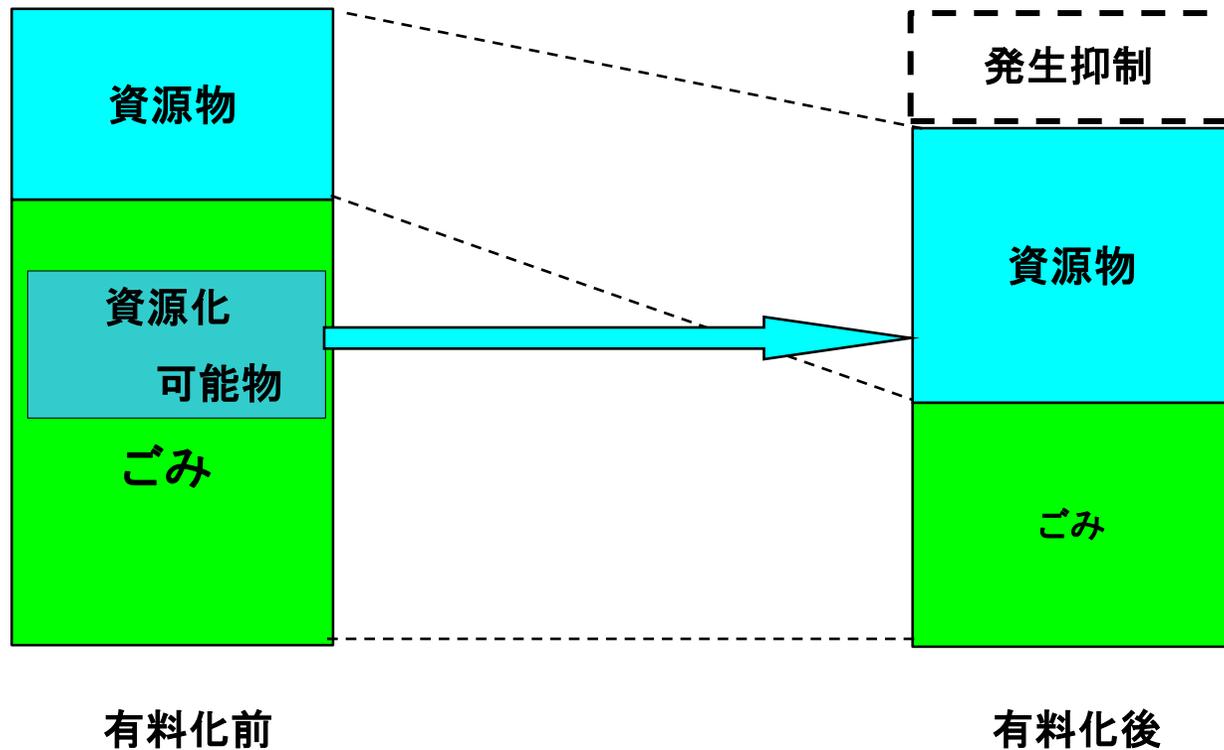
3Rで循環型社会システムを回す



3Rの取り組みで、どうなる？

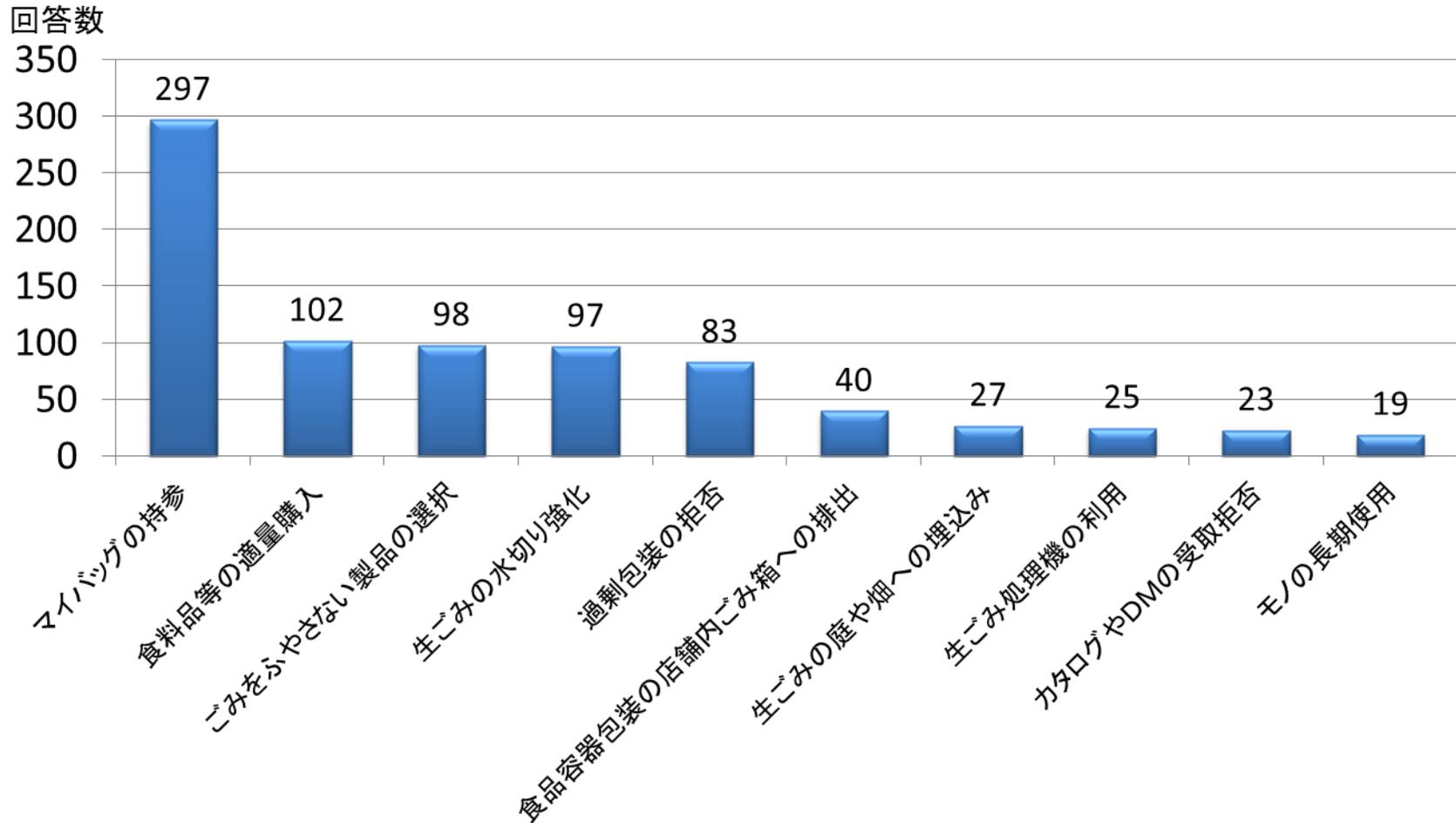
1. 環境負荷を軽減し、持続可能な循環型社会をつくることができる
2. 廃棄ごみを減らし、限りある処理・処分施設を長期間使用できる
3. リサイクルすれば、希少な資源を有効利用できる

3Rの取り組みを促進する手法としての 家庭ごみ有料化のイメージ



有料化に対応した市民の発生抑制行動

多摩市アンケート調査(2011)



家庭ごみ有料化の意義

1. ごみ減量・リサイクル推進への誘因を提供できる
2. 負担の公平性を確保できる
3. ごみ問題や適正排出への関心が高まる
4. ごみの処理経費を削減できる
5. 手数料収益を活用して住民のごみ減量への取り組みを支援できる

2. 家庭ごみ有料化の現状

2013年7月現在

全国812市区(789市+東京23区)

うち家庭ごみの有料化都市444市

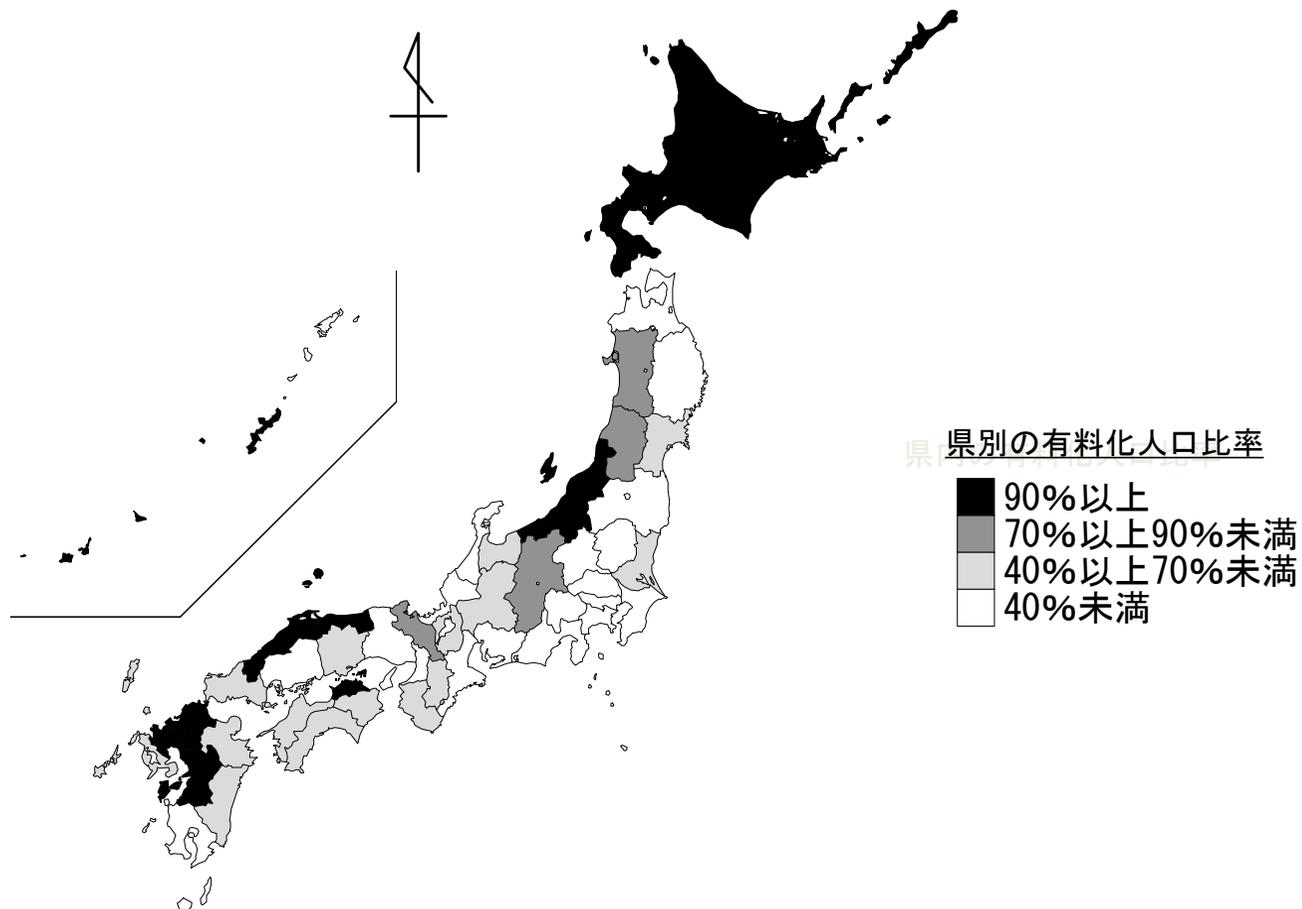
・有料化実施率54.7%

全国市区町村の有料化実施状況

(2013年7月現在)

	総 数	有料化数	有料化実施率
市区	812	444	54.7%
町	746	514	68.9%
村	184	119	64.7%
市区町村	1742	1077	61.8%

全国の有料化実施状況(人口比率) (2013年7月)



神奈川県市町村の有料化実施率

自治体比率 9% (→全国60%)

全33市町村中、3市町が有料化

人口比率 7% (→全国39%)

有料化市町:

二宮町 2001年10月 可燃21円/45L

大和市 2006年 7月 可・不燃65円/40L

藤沢市 2007年10月 可・不燃80円/40L

多摩地域では家庭ごみ有料化が進展

◆従量制有料化: 21市町で実施(2市町が予定)

八王子市	青梅市	福生市	調布市	西東京市	国分寺市
町田市	羽村市	東村山市	小金井市	多摩市	(立川市)
日野市	あきる野市	狛江市	武蔵野市	三鷹市	(日の出町)
稲城市	瑞穂町	清瀬市	昭島市	府中市	



3. ごみ減量効果は出ているか

2000年度以降の家庭ごみ有料化市の減量効果集計

有料化導入前年度との比較時点

有料化翌年度の減量効果

有料化5年目の年度の減量効果

手数料体系別サンプル数(合計130市)

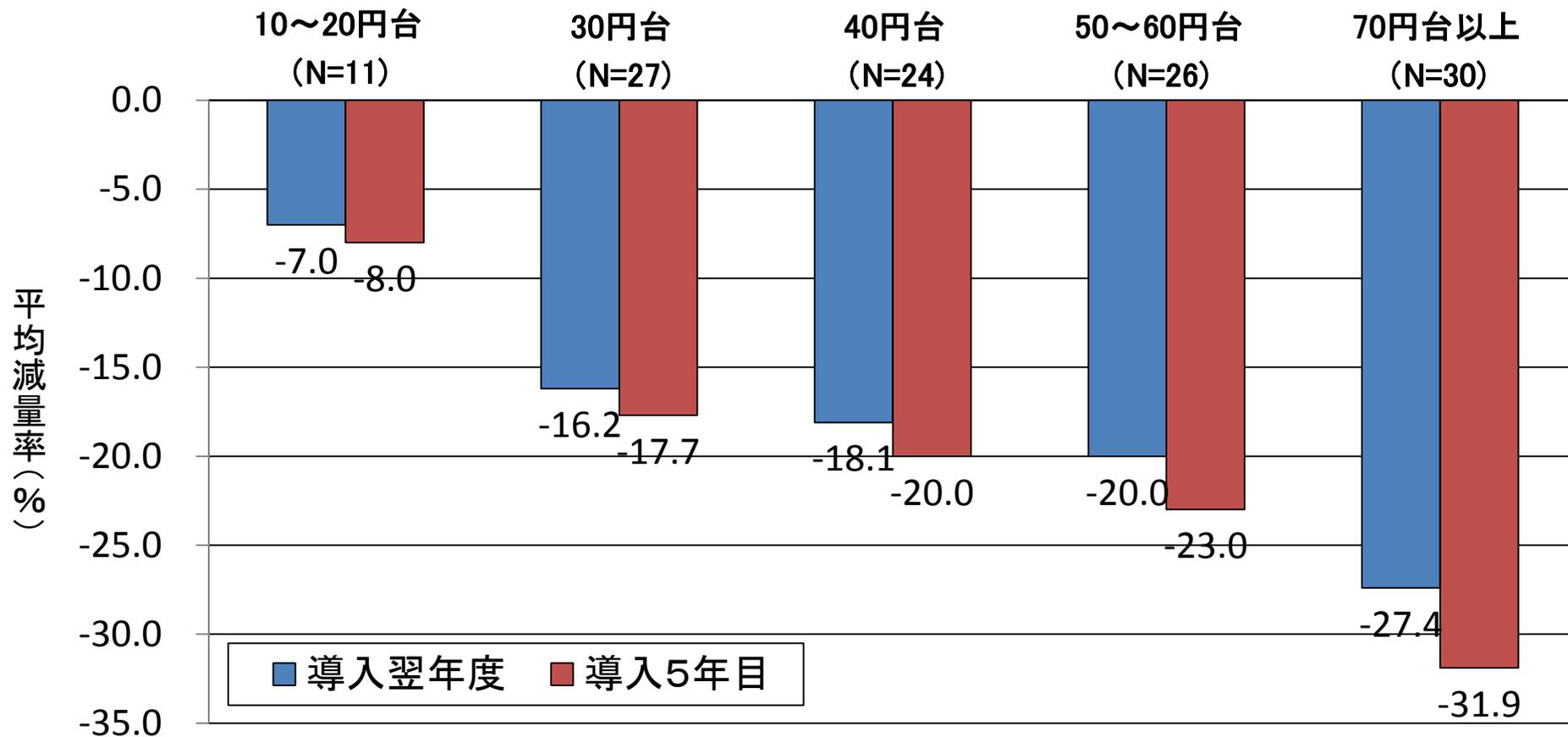
単純従量制 118市

超過従量制(二段式を含む) 12市

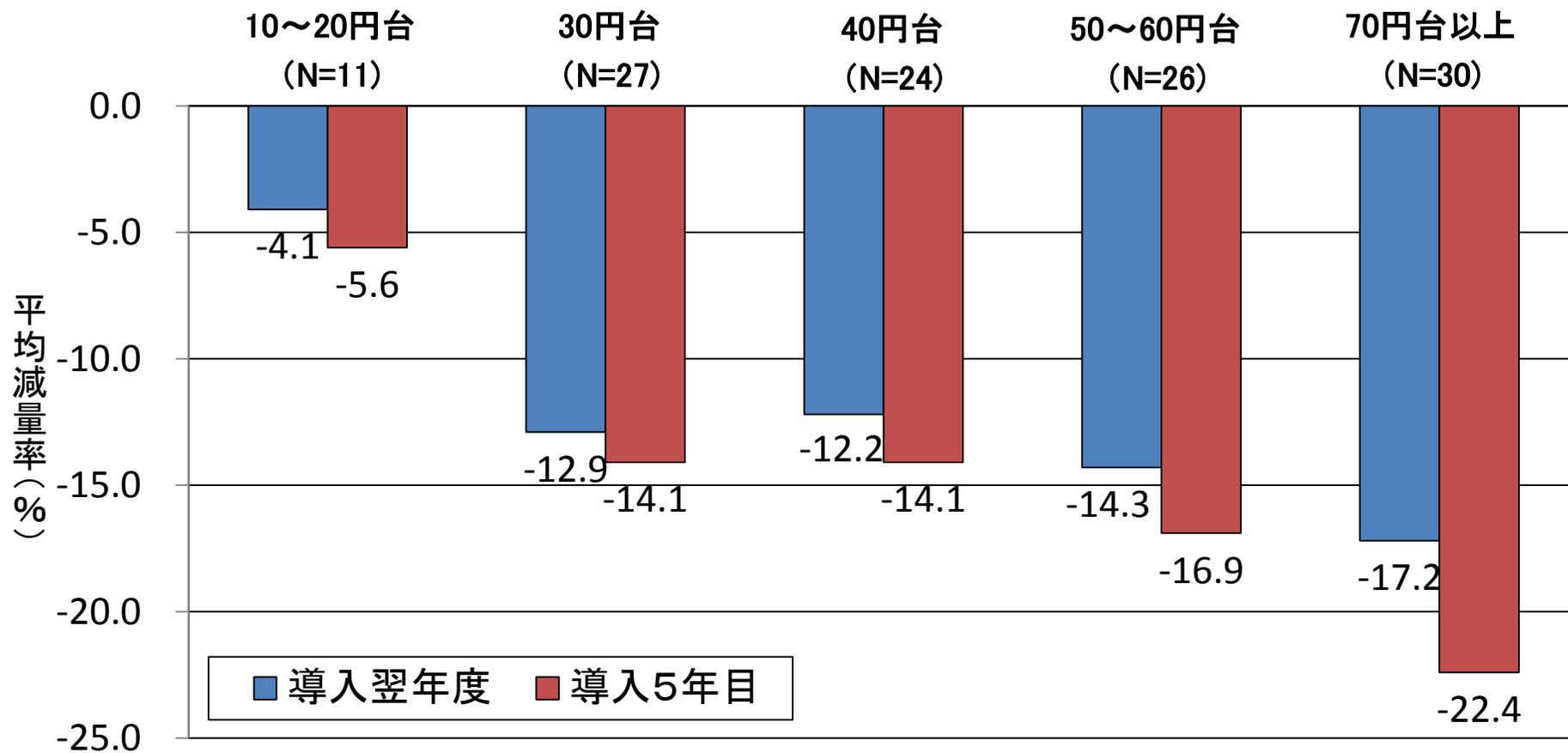
対象ごみ

可・不・粗ごみ、 家庭ごみ排出量(資源物含む)

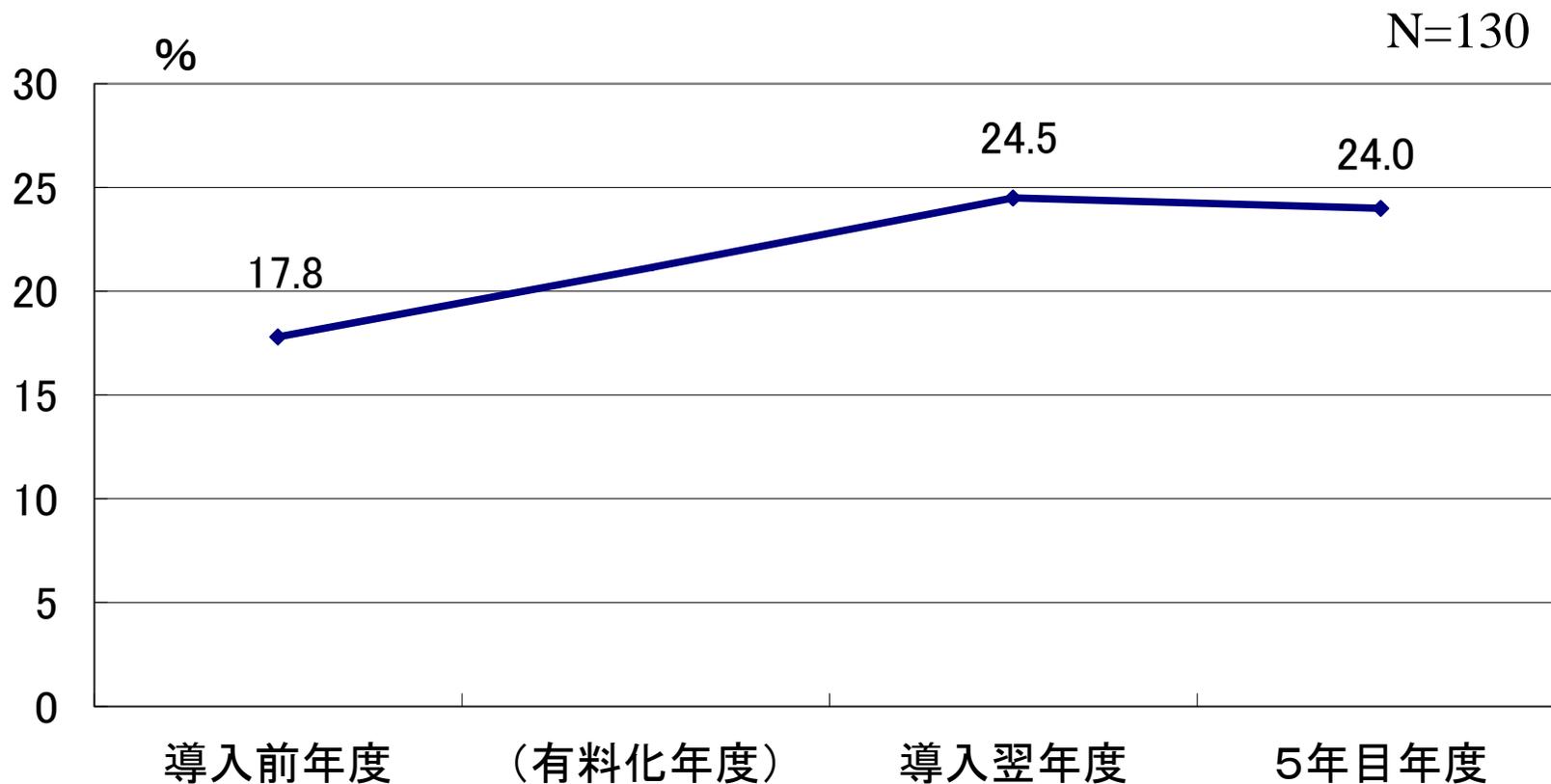
2000年度以降有料化導入118市 手数料水準と可・不・粗ごみの減量効果 (単純従量制:導入翌年度/導入5年目)



2000年度以降有料化導入118市 手数料水準と家庭ごみ排出量の減量効果 (単純従量制: 導入年度/導入5年目)



有料化導入後の 家庭ごみ資源回収率推移



有料化による減量効果：まとめ

- 2000年度以降有料化導入市の減量効果を平均すると、リバウンドの傾向は見られず、減量効果は実施後も持続している。
- 手数料水準が高いほど、減量効果は大きくなる傾向がある
- 有料化実施により家庭ごみ資源回収率が高まる

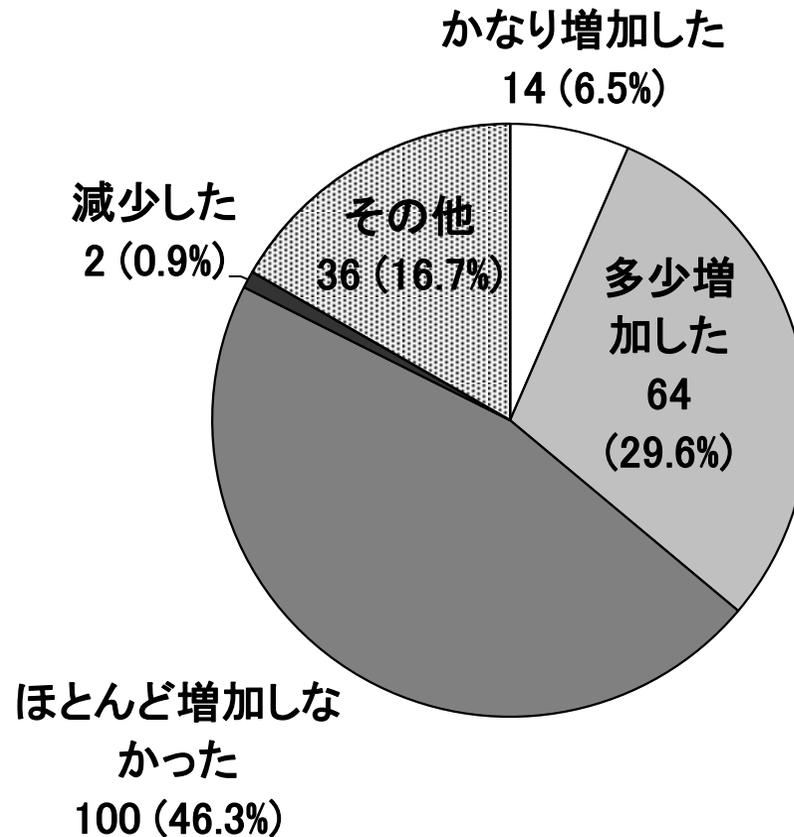
4. 有料化導入時の課題

- ① 不法投棄・不適正排出対策
- ② ごみ収集方式の見直し
- ③ 過度な家計負担の回避

課題① 不法投棄・不適正排出対策

- 有料化への反対理由、有料化実施の条件として住民から最も多く出される意見
- 有料化の目的の一つが、ごみ減量と並んで、負担の公平性であるからには、負担を不正に免れようとする行為としての不法投棄を放置することはできなくなる
- 不法投棄しにくい環境の整備が重要

有料化の前後での不法投棄量の変化



第2回全国都市調査(山谷)、N=216

課題② ごみ収集方式の見直し 戸別収集の導入

戸別収集の利点:

- ・排出者責任の明確化: 分別の向上とごみ減量
- ・不法投棄・不適正排出の減少
- ・小規模事業所ごみの排出適正化

戸別収集の問題点:

- ・収集コストの増大

課題③ 過度な家計負担の回避

- 減量の受け皿を整備し、減量への取り組みにより負担を軽減できるようにする
- 社会的配慮を要する世帯、紙おむつを必要とする幼児のいる世帯等に対する減免措置などを講じる

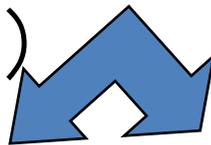
5. 有料化を活用して3Rの取組を推進し、持続可能な社会をつくる

人類による生活の豊かさ追求



大量生産・大量消費・大量廃棄
環境負荷増大・健全な物質循環の阻害

(岐路)



3Rの取組み

持続可能な循環型社会

持続不可能な社会